

(図中の口上文)

下り

大谷友松

御目見へ口上

御町中様万寿々々御機嫌能

みらせられ恐悦至極に存奉り升

さてやつがれ かみがたおもて
切 倅 事久々上方表に罷在候得共

たすみなれ
只住馴し大江戸の空のみなつかしく

かつ
且は御ひみき様方をも朝暮慕敷 あけくればたわしく

存居りましたる処此度年頃の心願 しんぐわん

相かなひ おのく 各様の御うるわしき御

そんがん はい
尊顔を拝し候事未熟不調法成る みじゆくぶてうほうな

私身にとりいか斗りか有がたく冥 めう

がしごく
加至極に存奉り升猶又此上大江

戸の御余光を以て 弥御ひみき御取立 いよく

を隅から隅迄ねがひ上奉り升 すみ

御ひみきのあつきを

あふく扇かな

芝道〔紫道 俳名〕